

高知県教育委員会 会議録

平成29年9月臨時委員会

場所：教育委員室

(1) 開会及び閉会に関する事項

開会 平成29年9月25日(月) 10:00

閉会 平成29年9月25日(月) 10:25

(2) 教育委員会出席者及び欠席者の氏名

出席者	教育長	田村 壮児
	教育委員	平田 健一
	教育委員	竹島 晶代
	教育委員	八田 章光
	教育委員	中橋 紅美
	教育委員	木村 祐二

欠席者 なし

(3) 高知県教育委員会会議規則第8条、第9条の規定によって出席した者の氏名

高知県教育委員会事務局	教育次長(総括)	北村 強
〃	教育次長	藤中 雄輔
〃	教育次長	永野 隆史
〃	参事兼小中学校課長	長岡 幹泰
〃	教育政策課長	酒井 啓至
〃	高等学校課長	高岸 憲二
〃	高等学校課企画監	山岡 正文
〃	教育政策課課長補佐	泉 千恵
〃	教育政策課教育企画担当チーフ	津野 哲生(会議録作成)
〃	教育政策課指導主事	小島 文晴(会議録作成)

(4) 議事の大要及び教育長等の報告の要旨

【冒頭】

【冒頭】

教育長 9月臨時委員会を開催する。

教育次長 (提案説明)

【付議第1号 県立高等学校再編振興計画 後期実施計画策定スケジュールについて
 (高等学校課)】

○高等学校課企画監 説明

○質疑

八田委員	本年度中の公開で開催する教育委員会協議会は、地域ごとに何回ぐらいを想定しているのか。各地域1回か。
事務局	想定では第1回目東部、第2回目・第3回目は北部と中部で合同会議をするというふうに考えている。第4回目高吾、第5回目が幡多というように考えている。日程の変更は可能で、相手方の市町村の動向に応じて変更もあり得るということである。
教育長	要は地域ごとに何回開催するのか。
事務局	地域ごとに1回である。
八田委員	高等学校の場合は市町村単位ではなく、実態として広域の要望もあるわけだが、どういう形でどんな広さで、お願いしていくことになるか。
事務局	広域、東部・中部・北部・高吾・幡多の5地域それぞれで開催していくような仕組みにしたいと思うし、その範囲で考えていきたい。
八田委員	特に思い入れが強いのは、各学校の地元の市町村だと思うが、その周辺の市町村も非常に大きな影響があって、ある程度そういう広い意見を求めるような形を作る必要があると思うが、何か具体的にどのような人に集まってもらって、どのように広報するのか。
事務局	事前に事務局で各地教委を回っていきたいと考えている。そして、教育委員会協議会には、学校が立地している市町村の市町村長、あるいは教育長などに来てもらい、幅広く意見を聞きたいと思っている。
八田委員	周辺市町村の首長からは、どのように意見聴取するのか。
事務局	時間的な制約もあり、立地している市町村の市町村長、あるいは教育長に来ていただきたいと思っているが、委員の意見も踏まえて、また検討していきたい。
教育長	各市町村を回って、出席したいという希望があれば参加してもらおうということではいか。

事務局	<p>そうである。</p>
八田委員	<p>スケジュールは、かなりタイトだが、やらざるを得ないかと思う。地域ごとに1回の機会だとすると、その1回で意味のある意見聴取ができなければならない。そこで、再編振興計画の本論の冊子の中にはあるが、概要版ではあまり明確になっておらず、気になる点がある。本論3ページの「基本的な考え方(2)のオ」に、「将来の地域社会や産業を担い、新しい時代を切り拓く人材の育成」とあるが、その地域が将来どんなビジョンを持って地域を活性化していくのか。残念ながら、今地方はひたすら人が減っており、放っておくと活力が無くなっていく。そこに挑戦し、活性化していかなければならない状況であるが、ある意味で学校が核になる存在ではある。そのためには、高校にただ期待するのではなく、地域のこれからの方向性と、地域が必要とする学校像をリンクさせた議論をする必要がある。</p> <p>学校が無くなるかどうかの議論ではなく、その地域の地域づくりに求める人材についての共通理解を持って、高校にこんな人材を育ててもらいたい。そのために、子どもたちを地域の高校に行かせたいという流れを作らなくてはならない。そうでなければ、ただ学校が無くなるかどうかという話で終わってしまう。そのためには、議論の内容を明確にしないといけない気がする。</p> <p>そうになると、地域ごとに1回しかない協議会の機会でも、地域の学校に対する思い入れ、ただ学校を存続してほしいという思い入れではなく、この地域の発展のためにはこんな学校が必要だというような議論にしていかなければならない。もちろん地域の首長や、事務局の皆さんにも十分に意見を持ってもらわなければならない。そういう議論を深める場にしていく必要がある。</p> <p>逆に一番危惧するのは、公開で協議会をやったとしても、そこで出た意見に対して、「そんなこと聞いてない」というような地域住民の感触があると、空回りになってしまう。やはり協議会に向けてその地域で様々な議論があったうえで参加してもらおうと、その後の議論が円滑に進められるのではないかと思う。</p>
事務局	<p>協議会を迎えるにあたっては事務局の方で各地教委を回ったり市町村長あるいは教育長を訪問し、各地域や学校が抱えている課題・テーマを集約して、あるいはどういった振興策をしていけばよいのかなどを事前に調査をしたうえで、テーマを示していきながら進めていきたいと考えている。</p>
教育長	<p>委員の言われるように、せつかくの機会が実のある協議会になるように、事前の調査等をしっかりとするようにしてもらいたい。</p>

八田委員	<p>学校は一つの大きな柱というか、学校ありきで振興策を考えるのではなく、振興策の中に学校をどう位置づけるかという議論をしっかりとさせていただけるようにしてもらいたい。</p>
平田委員	<p>私は前期実施計画の策定の経緯については分からないのだが、今回、前期の実施計画を踏まえて、後期の実施計画を策定すると思うが、前期同様の形で進めていくのか、もしくは前期の改善点を踏まえた内容で考えているのか、前期策定の時との違いがあれば教えてもらいたい。あと、資料にある「中間取りまとめ（たたき台）」と「中間取りまとめ（案）」は何か違いがあるのか。</p>
教育長	<p>使い分けているわけではなく、標記がそうなっているだけで同じ意味ではないか。</p>
平田委員	<p>まとめ（案）というと一般的な感じを受けるが、たたき台と言うと、選択肢を幾つか並べるイメージがあるが、ちょっと分かりづらい。</p>
事務局	<p>中間取りまとめ（たたき台）という表現を前期実施計画の際には使っていたが、基本的には案と同じように考えている。</p>
教育長	<p>前期実施計画の策定から、反省点をどう生かすかということだが、冒頭で説明したように、前期は、教育委員会内で協議をして、いきなりたたき台を出すという形になった。関係者にとっては、それが突然出てきたという感じになり、色々な思いがあった。今回は、前期のことを踏まえ、中間取りまとめのたたき台に至るまでに、できるだけ公開の場で話をしたうえで、出していこうと考えている。その辺りが一番の違いではないか。</p>
事務局	<p>ここで書き分けているのは、協議会で案を作って、教育委員会で決定、公表という意味で書き分けている。協議会で案を作って、中間取りまとめを決定するのは定例教育委員会で決定する。そういう意味で書き分けている。</p>
平田委員	<p>前回は市町村5ブロックで分けていたのか。</p>
事務局	<p>前回は、再編振興計画を県教委で作るにあたって、事前に外部委員による検討会を立ち上げた。検討会で議論する際に、5ブロックそれぞれで地域の声を聞いて、検討会に挙げていき方向性を決めてもらった。その後、その報告から県教委としてたたき台を検討して、教育委員に協議をしてもらうという流れで行ったものである。</p>

竹島委員	<p>前は西高校と南高校ということで非常に規模が大きかった。そのため、別の委員による事前の検討会をしてもらっていたが、今回は、われわれ教育委員の意見でやっていくような感じか。</p>
事務局	<p>前は再編振興計画を県教委が作るにあたって、10年間の方向性を検討会で議論してもらい、提言をいただいた。その提言にもとづいて、教育委員会内で10年間の報告を作り、前期の具体的な実施計画を作った。今回の後期計画については、その10年間の再編振興計画の冊子の中の後期の5年間でどういう形でやっていくかということ議論するので、やはり主体は教育委員会になる。</p>
木村委員	<p>この協議会は意見の違いが委員の中でもありながら進められると思うが、1回目の協議会は全エリアの方を対象にして、それぞれのエリアの意見、課題を出してもらおう。そして、第2回目以降で、1回目に出た意見を踏まえながら個別協議をしていくというようなイメージなのか。</p>
事務局	<p>第1回については、各地域から全員集まってもらうということではなく、県教委から前期の実施計画での現状や状況、課題など全体的な説明をさせてもらう。第2回から第6回までについては、各地域に出向いて、各地域の市町村からさまざまな意見を聴取したいと考えている。</p>
木村委員	<p>各市町村長や学校長の意見は、その場で初めて聞くことになるのか。</p>
事務局	<p>そうである。</p>
木村委員	<p>そこで意見を聞いて、当然食い違う部分もあると思うが、それについては、その場で解決していくということになるか。</p>
事務局	<p>その場で解決するというより、基本的には意見を聞きに行く会にしたいと考えている。委員のみなさんにはその課題についてやりとりしてもらおうというような形になる。</p>
教育長	<p>相当タイトなスケジュールだが、31年度からのスタートとなるため、30年度中には作らなくてはならない。</p>
教育長 各委員 教育長	<p>本事件の議決を求める。賛成する委員は挙手をお願いする。 全員挙手 本事件を原案のとおり議決する。</p>

(5) 議決事項

付議第1号

原案どおり議決